

難易度の高い特殊加工も効率的に対応可能

(株)スカイ



天竜川沿いの2エリアに6つの工場を展開する(株)スカイは今年30周年を迎える

一般住宅から大型木造建築までのプレカットを手がける(株)スカイ(静岡県磐田市、高橋幸嗣社長)は、天竜川沿いの2エリアに6つの工場を展開し、東海エリアから南関東エリアを中心にプレカット材やパネル材の供給を行っている。

同社の創業はプレカットが急速に普及し始めた平成2年の5月で、今年30周年を迎える。木材業4社による協議を経てプレカット事業に参入した。翌年には、静岡県天竜市船明(現:浜松市・船明羽柄工場)に工場を竣工させ、操業を開始。平成6年には同工場のライン増設を行うとともに第2工場も竣工させ、生産力を増強させた。平成8年には関東営業所を開設し、商圏を南関東まで拡大。その後、営業本部や資材部、工事部などを設立し、多様化する需要への対応力を高めていった。平成16年には本社機能を現在の豊岡本社工場に移転。これを皮切りに豊岡エリアに2工場、船明エリアに4工場の計6工場体制としたほか、関東エ

リアに物流拠点のデポを開設し、物流分野における機能も整備した。平成26年にはCLT・大断面对応全自動プレカット加工ラインを導入、平成30年に同加工ラインの増設を行うなど、大規模木造建築やCLT建築などの非住宅分野の対応力強化を続けながら、現在に至っている。

「4×3」に複線化した横架材加工ライン

現在、豊岡本社工場では横架材を加工するラインが3つ稼働しているが、そのうちの1ラインは昨年12月に更新した宮川工機株の最新機種となっている。更新前の既存機は「量」を重視した大量生産向けの加工ラインだったため、時代とともに変化する商品の「質」を追求するには大幅な機械構成の変更が必要になってきた。そのため、多様化する加工形状への対応と精度の向上、省エネ・省人化による生産効率の向上を目的